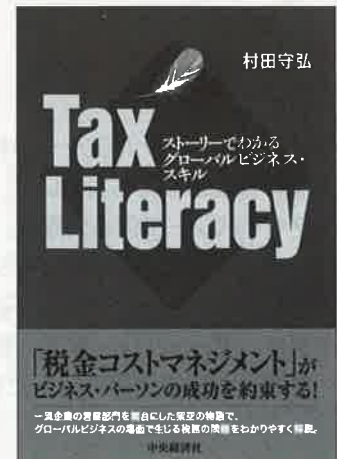


ストーリーでわかるグローバルビジネス・スキル

Tax Literacy

村田 守弘【著】

A5判 148頁 定価：2,000円+税
中央経済社刊

著者は「はしがき」で、本書を「国際税務を手掛かりにしてあなたのビジネススキルに対する気づきを高める本」と考え、「国際税務の解説本と考えてほしくはありません」という。グローバルビジネスで活躍できるかは「片言でも現地の人と会話できる（コミュニケーション）能力」と、できれば「現地の食事ができる（強靱な）胃袋」が大事と言いつける。

これを税務に置き換えれば、税務と一見無関係な業務についている中堅社員が、税務の要点をしつかり掴み、果敢にグローバルビジネスでその感覚を活かす度胸があれば、間違いなく本人自身の大きな成長とビジネス貢献ができるということである。これは、経営層が中堅社員に求めていることでもある。リスクマネジメントの立場からみると、もちろん予防第一だが、仮にリスクが現実

化したとしても、早期かつ適切な対応が大きな事故や損失の回避につながる。

そのために本書は、会社の中堅を担う上昇志向のあるビジネスパーソンが手に取って読みやすいように配慮し、典型的な税務トピックスを対話形式で15話に仕立て展開する。

税務に限らずビジネスリスクの大半は、業務を実際に遂行している第一線の現場で起こる。このビジネスリスクをうまくマネジメントするには、第一線のリスク感知能力とこれを支えるスタッフの組織的な力量にかかっている。法務や安全・環境問題などでも、同じである。

仕事の巧拙は、第一線の現場が専門外のことについても、深い知識を有しているかどうかではない。専門外でも、業務に関連して最低限のポイントを把握し、感度のいいアンテナ（気づき）を持ち、それを活かす行動力にかかっている（著者は「Literacy」という言葉で表現した）。第一線の現場の「Literacy」のレベルアップは、リスク回避のみならず、業務効率を著しく向上させ、スタッフやコンサルとの連携においても最適解を得やすくする。

「Tax Literacy」は税務担当者に

とつても重要といえる。とかく専門用語が多く、わかりにくい説明では、素人はついていけない。そして税務という現実世界で、要求される正義と効率追求をどう調和させ、企業価値向上を図るか、という難しい問題を本書はわかりやすく教えてくれる。時に、税務当局と争うことも辞さない強い姿勢や、脱税とはまったく異なる節税の追求姿勢の重要性も教えてくれる。

この書は、中堅社員のみならず、マネジメント層や会計・税務担当者にも読んでほしい書である。グローバルビジネス・スキルの向上が企業価値向上につながるのと著者の確信が「Literacy」の言葉に込められている。

グローバル経営のバランスのよい総合力が問われている現在、社員のグローバルビジネス・スキルの向上に努めて経営しようとしているか、これに應える中堅社員がいるかどうか、中長期的な競争力を測るうえで大きなカギになる。

これを実践的に示唆する本書は、国際税務に精通し、企業経営に明るい著者ならではの好書といえる。

佐々木 保行（元住友ゴム工業（株）常勤監査役）